

山口芸術短期大学 同窓会しょうび 会報誌

至誠

5号

2025年
3月発行



c o n t e n t s

- しょうびレポート……………2-3
5年に一度の大同窓会開催！
- 山口芸術短期大学授業紹介……………4-5
- 頑張っちゃうよ、同窓生！……………6-7
- ロゴマーク決定のお知らせ……………8
学生の動き
母校への寄贈品のお知らせ
寄付のご案内
同窓会役員構成
編集後記



5年に一度の 大同窓会

2024年11月24日曜日、山口芸術短期大学B棟300番教室にて、大同窓会が開催されました。会場には関東や四国、九州から集まった同窓生と関係者の総数150名の賑やかな話し声と笑顔が溢れていました。今回は大同窓会で撮った写真を中心にレポートしていきます。



4回 総会

山口芸術短期大学
同窓会 しょうび
第14回 総会・大同窓会

総会

山口芸術短期大学
同窓会 しょうび
第14回 総会・大同窓会



5年に一度の総会、会則の改訂をご承認いただきました。この先5年は皆様の承認に基づき、会を運営していきます。ご協力ありがとうございました。

大同窓会オープニング

山口芸術短期大学
同窓会 しょうび
第14回 総会・大同窓会



50冊以上ある卒業アルバムを図書館よりお借りし、オープニングムービーを制作しました。BGMは生演奏でお届けしました。

声優

神代知衣さんによる 特別講演



卒業生でもありゲストである声優、神代知衣さんの講演。皆さん、神代さんの元気な声とお話に夢中でした。神代知衣さんよりコメントが届いています！

この度はしょうび大同窓会にお招き頂き本当にありがとうございました。芸短卒業後、OL生活を半年ばかりやっておりましたが当時はまだまだ社会が未成熟でした。「力があれば男も女も同等に評価される仕事したい!」そんな漠然とした夢とポストナッグひとつ携え上京し、とにかく目の前の事を真摯に一生懸命に生きてきました。私の周りにはいつも水先案内人のように導いて下さる方が絶えず現れ支えて下さり道を示して下さいました。ただただ人とラッキーに守られてきた人生。気がつけば声優になり沢山の素晴らしい作品とキャラクターに恵まれ、芸歴40数年…今も現役で声優と舞踊、芝居の世界で生きております。役者の仕事には全ての体験が学びでありひとつ無駄なものはありません。私が芸短で学んだ事は今自分の仕事に全て生かされています。特に舞台上で演じるだけではなく制作のお手伝いにも入れます。衣装はデザインから関わったりもします。そして体の中には「至誠」の精神が息づいています。夢を持ち一生懸命に向かえば自分が生きる場所に辿り着きます!そこがどんな場所であれ、そこで自分が生き生きと回りを照らす光となって生きていけば道は開けると信じています!わが母校、山口芸術短期大学。素晴らしい学びをありがとうございました。そして母校にお礼を伝える機会を下さいました事、同窓会役員の皆様にご心より感謝申し上げます。「ありがとうございました」

神代知衣(生活芸術科12期)

美味しいお弁当と懇親会

大同窓会特製弁当!大好評でした。お弁当の掛け紙は幹事の吉田朱里さんが制作しました。



「デザインコンセプト」
今回デザインするにあたり、しょうび会報誌「至誠」2号の会長、理事長、学長の座談会の記事をヒントに考えました。その記事を読むまでは、自分が在学していた時代に存在した学科の名前が変更されたり、授業そのものが無くなってしまっている事に対し、ネガティブな感情を抱いていました。しかしそれは、芸短設立当初から基盤とされていた「芸術性」はそのままだけに、いかにその時代に合わせた人間を育て上げるか、という事だったと知り、非常に感銘を受けました。そこで、土台(鉢)は変わらず、時代(背景)に合わせた教育(土)で学生が育ち大輪の花(薔薇「しょうび」)を咲かせている様子を表現いたしました。また、この大輪の花が卒業し再び集う事は、大同窓会がまるで花束のように華やく空間になりますように、という想いも込めました。

吉田朱里(デザインアート学科42期)

懇親会は時間を忘れて話に夢中!懐かしい卒業アルバムを見ながら、久しぶりに会った同窓生とはいくらでも話せます!



お楽しみ抽選会

お待ちかねの大抽選会!それぞれ賞が設けられ、順番に抽選しました。皆さんのドキドキ感、伝わりました!会長賞「スタバのドリップコーヒー」やしょうび賞「究極のお茶漬けセット」など7つの賞があり、株式会社ココモさんとスポーツクラブAcosさんからは協賛もいただきました。



大同窓会記念品



幼児教育科卒業生の藤田善江さんがお母さまと作られている21世紀フラワーファームのパバイヤドレッシングが参加者全員に配られました。生産者、藤田さんのコメントです。

この度は、パバイヤドレッシングを皆さんに食べてもらうことができても光栄です。サラダや温野菜にかけたり、味がしっかりとあるのでパスタにかけて食べても美味しいです。母と私が愛情を込めて栽培した青パバイヤで作ったドレッシングです。ご賞味ください!

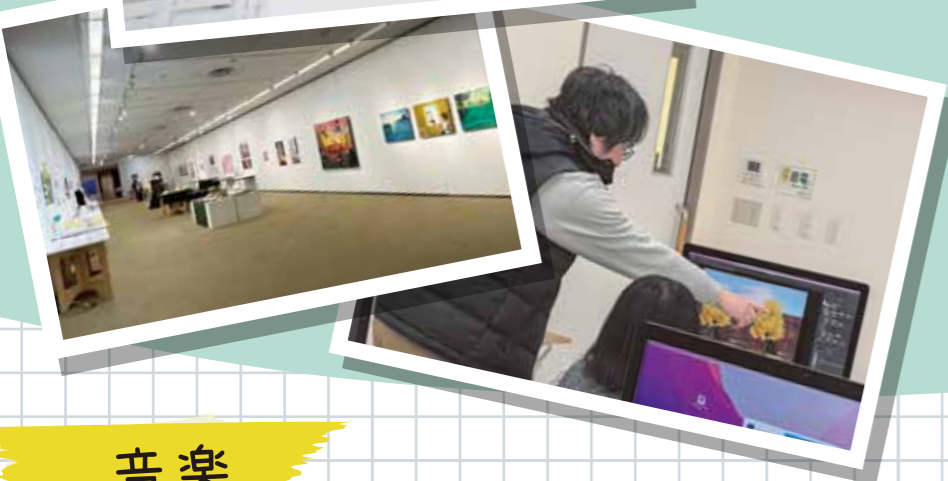
藤田善江(幼児教育科18期)

芸術表現学科

デザイン

プロの方に教えて頂いているので、より専門的に理解することができます。家で使えないような機材を使って学べ、自分の好きなように絵を描けるのが楽しい！

グラフィック・Webデザイン・メディア表現演習
デッサン・色彩論など



音楽

自分が得意とする音楽のスキルアップが可能です。冬に開かれるクリスマスコンサートでは自分の努力の成果を見せられる！楽器の貸出もできるので自由に練習ができる！

ピアノ・吹奏楽・合唱・サウンドデザインなど



ビジネス

パソコンスキルなどビジネスに必要な能力を高めることができます。グループワークが多くてたくさんの人と仲良くなれる！検定に向けて勉強ができるのが助かる！

ビジネス文書・インターンシップ・キャリアデザインなど



保育学科

保育実習・教育実習

実際に子どもと関わりながら学ぶことができます。実習後には振り返りを行い、共有することで、自信や実践力が身に付きます。

実習中は不安なことがあればメールでいつでも教員に相談することが出来るから安心できる！

造形室や個別レッスン室など設備が充実しているので安心して取り組める！



授業紹介

私たちが普段学んでいる様子をお見せします！

子ども総合研究

2年間の集大成として、保育に関してより深く学びたいテーマを決め、グループでの研究活動を1年間かけて行います。

グループでの研究活動なので楽しい！

作品を作ったり劇をしたりと、いろんなことが学べる！



ピアノ

個別レッスン室があるのでたくさん練習することができます。先生が優しく親身になって教えてくれます。各々のレベルに合わせた授業なので、最初はできなくてもできるようになる！



頑張っちゃうよ 同窓生!

創作がライフワーク

芸術文化学科33期 中村 幸治さん
(ビジュアルデザインコース)

現在は、中間支援NPO法人に籍をおきながら個人でイラストレーター・デザイナーとしてkozi69 production(「ゾロロックプロダクション」)を開業。
主に地元行政や企業、個人からの依頼を受けながら創作活動を続けています。



芸短卒業後は、アルバイトをしながらイラストを描いてはホームページに公開する日々。バンドをやっている兄のライブチラシをつくったり、ショッピングセンターで作品展を

したり、だんだんと外に向けての活動が増え人伝いに人となりが、活動の幅が広がっていきました。在学中にさわったMACとその技術は創作・仕事に欠かせないものとなっていました。

20代の頃の「売りたい」「有名になりたい」などの承認欲求は希薄になり、ライフワークとして創作が楽しめる様になった。昨今、ギャラリーや別の場所でも、芸短出身の人と出会う機会も多く、世代バラバラの芸短卒のメンバーでグループ展を一緒に企画してみたり、ライブイベントのイベントに誘ってみたり、若手世代の活動や発表の機会に「なるようになる事も増やせたら」と思っています。

活動としては、2003年の自身が運営するホームページ開設を起点として20年が過ぎました。コンセプトは「ガルイラスト」を軸に「描くシブシブなポップ」。これからは変わらず、イラストとデザインで場所を盛り上げたり、関わっていただいた人を楽しんでいただけるように、続けていきます。



web portfolio <https://kozi69.com>
Instagram @kozi69illustration @kozi69production
X(旧Twitter) @kozi69

次の夢に向かって

幼児教育科18期 藤田 善江さん

私は小さい頃から、幼稚園の先生になりました。小学生の時は、近所の先輩たちを集めて先生ごっこをよくしていました。幼稚園の先生になる為には、「ピアノが弾けない」といけないので、ピアノ教室にも通い、幼稚園の先生になる準備をしていました。高校では、山口県内で就職率が一番の山口芸術短期大学の幼児教育科を目指し勉強をし、受け取りました。



短大時代は、3本乗り換えての通学と授業と帰りのピアノの練習と実習であっという間の2年間でした。短大の先生方にはとてもよくしていただき、就職先も必死に見つけてくださり感謝をしています。夢だった幼稚園の先生にも無事になれ、毎日むしむし涙が溢れました。楽しいことはかりではなく、涙の出る時もありましたが子どもたちに助け



られ19年間先生として働くことができました。就職してからも、山口芸術短期大学の先生たちとは、繋がる事ができ、オヘッタと一緒に考えてもらったり、絵画の指導をしてもらったりして、日々勉強をさせてもらいました。先生方のおかげで、「自己表現がしつかりでき、生きる力のある」子どもたちに育ってくれたと思います。

いつまでも幼稚園の先生をしていたかったのですが、母が農業をしていて、後を継いでほしいという願いにこたえ、12年前に農業の道に入りました。初めは草引きばかりで、全く面白くなく農業が嫌いでしたが、段々、作物が育てられるようになり、それが売れ、お金になることでやりがいもでてきました。今は、ジャム作り体験や農業体験などもしています。農業は誰にでもできます。そして、作物ができるのはすごく嬉しく、自分の作った物は素晴らしいです。この素敵な農業体験をたくさんの人にしてみらえるような施設を作り、作ることに楽しさと大切さを母と一緒にたくさんの人に伝えるのがこれからの私の夢です。

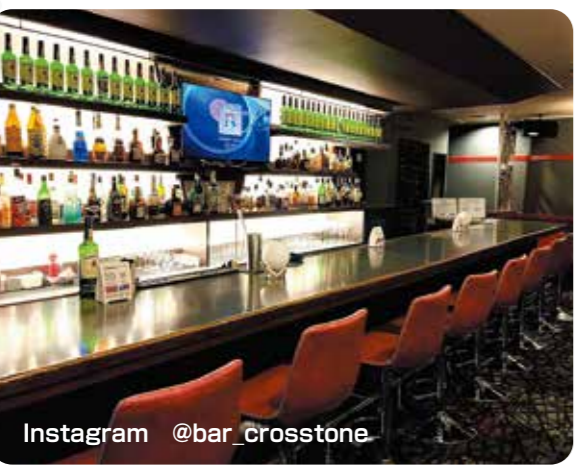
音楽と夢が交差する人生

音楽学科41期 服部 憲尚さん

私が芸短に在籍していたのは16年ほど前。当時は音楽学科でギターを専攻し、軽音楽サークルに在籍。バンド活動に全力の2年間でした。

その間に先輩の紹介でアルバイトを始めました。学校からすぐ近くの小さなレストランで、週に何度か皿洗いと裏方業務のお手伝いをしていました。卒業後、思うような就職に恵まれず、一年間そのままそのお店にお世話になり、ホールスタッフも務めることになりました。店内でお席に料理やお酒を運び、「美味しい!」「ありがとう!」「あったかお客様に反応をダイレクトに受けるようになり、接客業の楽しさに気が付きました。

ちょうどその頃からお酒にも興味を持ち始め、カクテルについて調べたり、バーに通ったりするようになり、カウンスターがメインのバーである。良くも悪くも、お客様の反応がダイレクトに伝わる距離感。反応、言葉、表情ひとつひとつでわかる、この臨場感がたまらない!という事で、そこからバーテンダー、そして自分の店を持つことを夢見るようになり、



Instagram @bar_crosstone

居酒屋のスタッフ経験を経て、23歳頃から宇部のショッパバーに勤めることになり、11年に及びバーテンダー修業。そして2024年、やっこの思いで独立し、自分のお店を持つことになりました。大変なことも多いですが、念願の自分のお店。日々いろいろなお客様とのやりとりのひとつにありがたみを感じます。

その一方、ギターを弾くこと、歌うことからはしばらく距離を置いていたのですが、数年前、ひょんなきっかけでまた音楽活動を再開することになりました。宇部市のライヴハウスを拠点に、最近では市外県外に呼んでもらったり、街のイベントに携わったりするようになりました。古くからの仲間ももより、そういった音楽の場所に出会った方々も、それをきっかけにお店に足を運んでくれたり...

自分が魅了された飲食の世界と、この人生とは切っても切り離せない音楽。それが交わる瞬間を体感するたびに、幸せな気持ちになります。

一緒に成長すること

保育学科38期 一木 美緒さん

短大を卒業後、地元の障害児通所施設に保育士として就職しました。

私が保育園や幼稚園ではなく障害児通所施設で働きたい!と思ったきっかけは、在学中に地元の障害児通所施設の夏休みのボランティアに参加したときの経験からです。子どもが好きだったので、一緒に遊ぶのが楽しかった思い出はもろもろ、惹かれたのは職員の方が利用者の子とも真剣に向き合っている姿でした。



実際に、働いてからは職員が利用者に対してどのように声をかけたり、「ミニメーカー」シヨンを図っているのかなど、見よう見まねの毎日でした。人間相手の仕事なので、同じように声をかけても同じ返事や態度が返ってこない、当たり前のことに苦戦する毎日でした。

しかし、年数が経って経験を積んでいったことで苦戦していた毎日からは抜け出して笑いあり涙ありに変わっていきましました。涙ありは、悲しいだけでなく、悔し涙も入っています。同期の子や職員の方に支えられて7年半、結婚、出産を経て場所は違いますが



が同じ分野の場所に勤めて4年目になりました。私がこの障害分野に関わっているなかで特に意識していることは、「一緒に成長すること」です。幼児期以降も、様々な体験や経験を積んでいくことで心が育っていくと思っています。主に自閉症、発達障害の子が通っていて、一人ひとりが様々な特性があり支援方法も違います。教科書に載っているようなことは参考にしかならず当てるはまるとは限りません。利用者を中心とした保護者、支援者、関係する全ての機関がチームとなって考えていくことが大事です。だからこそ、利用者の子もだけでなく、支援者も一緒に成長出来るのです。そして、障害分野で働く面白さもあり、やりがいにも繋がっていると実感しています。

在学中でも、障害分野のことは学んではいましたが今も、利用者と子どもたちと関わり支援をしていることが勉強です!保育職に就くための勉強や実習を乗り越えてきたからこそ、今の仕事がいよいよ充実した毎日となっていると思っています。

もし、障害分野にも興味や関心があれば、ぜひ積極的にボランティアや実習に行ってみてください!

山口芸術短期大学 同窓会しょうび ロゴマーク決定のお知らせ

この度、同窓会しょうびではシンボルとなるロゴマークを制作致しました。これから先を見据えていくために①在学生②学び舎③同窓会とが三位一体となって一緒に支え続けるという意味を含め、三輪の薔薇をモチーフにしデザイン致しました。



山口芸術短期大学
同窓会しょうび

Design by 吉田朱里
(デザインアート学科42期)

学生のうごき

近年の入学者、卒業者数の統計

令和5年度	男	女	合計
入学者数	11	102	113
卒業者数	6	110	116
進学者数	0	2	2
就職者数	5	100	105

令和6年5月現在

令和6年度	男	女	合計
入学者数	11	96	107
卒業者数	11	99	110
進学者数	1	1	2
就職者数	9	86	95

令和7年2月28日現在

同窓会役員構成

- 名誉会長 岡村 康夫 (山口芸術短期大学学長)
 会長 長谷川貴志 (生活芸術科 27 期)
 副会長 田良 浩樹 (幼児教育科 21 期)
 竹内 美幸 (音楽学科 42 期)
 書記 久富 和也 (保育学科 36 期)
 顧問 内山久美子 (生活芸術科 11 期)
 幹事 若崎 智子 (生活芸術科 9 期)
 杉本 紀子 (音楽科 12 期)
 大野 恵子 (幼児教育科 6 期)
 中尾 優太 (保育学科 32 期)
 服部 憲尚 (音楽学科 41 期)
 森重久美子 (音楽学科 42 期)
 中西 朱里 (デザインアート学科 42 期)
 木村 祥子 (芸術表現学科 44 期)
 藤原 愛梨 (芸術表現学科 44 期)
 井上 智美 (保育学科 38 期)
 藤原 知明 (芸術表現学科 46 期)
 岡本 優香 (芸術表現学科 47 期)
 神木 綾乃 (芸術表現学科 47 期)
 会計監査 川手 艶子 (音楽科 12 期)
 船木 一顕 (山口芸術短期大学事務部事務課長)
 事務局長 原井 進 (山口芸術短期大学学生部学生課長)
 会計 狩山美重子 (山口芸術短期大学学生部)
- 中国支部 金築 敏久 (生活芸術科 9 期)
 九州支部 外磯宏二郎 (芸術表現学科 44 期)
 四国支部 川村 高弘 (音楽学科 32 期)

母校への寄贈品のお知らせ



今年度も母校への活動支援の一環として、同窓会費の一部を備品寄贈費として使用させていただきました。同窓生の皆様にはご理解の程よろしくお願いいたします。

今年度もベンチ2台を寄贈させていただきました。好評をいただいているベンチ。今回さらに2台増やすことにしました。ますます賑やかになる中庭で、学生さんたちの2年間のより華やかになると嬉しく思います。

寄付のご案内

同窓会しょうびでは、「同窓会運営」「同窓生支援」「同窓会情報発信」を定め、母校に貢献する母校支援活動をさらに展開して行くこととしております。

今年も引き続き会員の皆様のご厚情を賜りたく、大変恐縮でございますが、100(一、0000円)以上ご寄付いただければ幸いです。

今後とも会員の皆様方の絶大なご支援・ご協力をいただきながら、同窓会発展のため努力して参る所存でありますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

※会報誌折込別紙参照

【寄付金の使用目的】
 同窓会全体の活動を積極的に展開することが同窓会の発展、同窓会会員への支援の向上に繋がるものでありますので、ご寄付の使用目的については、『同窓会活動、同窓会運営全般に充て、更なる会員支援の向上、同窓会運営の拡充へ有効に活用』とさせていただきます。

皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

山口芸術短期大学同窓会「しょうび」

〒754-0032
 山口県山口市小郡みらい町一丁目7番1号
 山口芸術短期大学内
 TEL:083-972-2880 FAX:083-972-4145
 同窓会しょうび公式ホームページ
<http://shoubi-yca.com/>
 メールアドレス shoubi@yamaguchi-jca.ac.jp
 山口芸術短期大学公式ホームページ
<http://www.yamaguchi-jca.ac.jp/>



Facebook



Instagram

編集後記

山口芸術短期大学同窓会「しょうび」の会報誌「至誠」第5号の発行にあたり、ご協力いただいた先先生方、卒業生の皆様、在学生の皆様を中心に感謝申し上げます。

今回は5年に一度の大同窓会もあり、より充実した内容となりました。デザインも毎年改良を重ね、見やすさを追求しています。

『至誠』が在学生と卒業生をつなぐ架け橋となり、母校の発展に寄与できれば幸いです。ぜひご覧いただき、さまざまな思いを語り合ってくださいと思います。

来年度も同窓会「しょうび」は前進してまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。